

クリスチャン

シリーズ・パウロ

第5回

これまでのいきさつ

- イエスをメシアと信じる者を憎み迫害した
 - 見つけしだい、牢に放り込んだ
 - ステファノの殉教を目撃した
- 信者を捕まえるために出かけたダマスコで、イエスの声を聞き、回心した
- ダマスコで3年間宣教した後、エルサレムに行ったが、命を狙われタルソスに帰った

アンティオキアの教会

＜使徒言行録11:19-26＞

- イエスを信じる人々は国外へも宣教に行ったが、ユダヤ人以外には福音を語らなかった
 - － 異邦人には救いはいらないと思っていた
- ペトロが異邦人に福音を語り、彼らにも聖霊が降った＜使徒10章＞
- 外国出身のユダヤ人信徒がアンティオキアで「ギリシヤ語を話す人々」にも福音を伝えた
 - － 多くの異邦人がイエスを「信じて主に立ち帰った」

パウロ呼ばれる

- エルサレムの使徒たちはバルナバをアンティオキアに派遣した
- バルナバは異邦人が改心している姿を見た
 - アンティオキアはローマ帝国第3の都市
- 彼らを教えるため、バルナバはパウロを捜しに行き、アンティオキアに連れてきた
 - 外国出身のパウロはギリシャ語が堪能だった
- 二人は丸一年アンティオキアで教えた

パウロの足跡

タルソス

アンティオキア

ダマスコ

エルサレム



「クリスチャン」と呼ばれる

- パウロはイエスの死と復活の意味やイエスを信じて生きることをギリシャ語で教えた
- パウロによって福音はギリシャ語(世界の言葉)になった
 - ローマ帝国ではギリシャ語が公用語であった
- イエスが「キリスト」であることを強調した
- アンティオキアの人々がキリストのことばかり話すので「クリスチャン」と呼ばれた

なぜキリストなのか

- 「キリスト」はヘブライ語の「メシア」のギリシャ語訳:「クリオー」油注ぐ, から
- パウロはキリストという単語を意識的に使った<パウロの手紙>
 - イエス単独(35回)・キリスト・イエス(85回), イエス・キリスト(81回), キリスト単独(244回)
- パウロは, **イエスが全人類の救い主**であることを確信していた

キリストバカと呼ばれて

- 「クリスチャン」とは、キリストに従う者、キリストに属する者、の意味だが、実は**バカにした呼び方**だった
 - 「はりつけにされて殺されたユダヤ人を救世主と信じているバカな連中」
- パウロは自らを「イエスの僕」と誇らしげに呼んだ
 - キリスト・イエスの僕、神の福音のために選出され、召されて使徒となったパウロから
＜ローマ 1:1＞

クリスチャンと呼ばれよう！

- あなたはまわりの人々に何と呼ばれているか
 - 「金ゴン」「仕事中毒」「グチ魔」「イヤミ」・・・
- イエスがあなたの救い主(キリスト)であることをもっと体験しよう
 - キリスト・イエスは今も生きて私たちを喜びと平安と愛で満たし、私たちの祈りに答えられる
- キリストに仕える者になろう

生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

<ガラテヤ 2章20節>